第5回
JLAジュニアライフセービング
クラブハウス実施報告書

公益財団法人　日本ライフセービング協会
ライフセービング教育本部　地域教育推進委員会
委員長：木島　悠太朗　　事業担当：高橋　悠　　玉虫 湧也

JLA Jr LIFESAVING CLUBHOUSE

第５回クラブハウス要旨

私たちの委員会では「2031 年までにすべてのクラブに ジュニアライフセービング活動を」というテーマを掲げています。

本ジュニアライフセービング・クラブハウス事業は、コロナ禍の2022年１月に第１回、今回１０月には第5回目をオンライン形式で開催しました。JLA内部にとどまらずスポーツクラブ、学校関係者と新たな繋がりが広がっています。

第5回では、JLA専門委員（スポーツ、防災、アカデミー、学生の各委員会）をクラブハウスにお招きし、ジュニア教育に関してトークセッションを行いました。

また、参加者の方には、LINEオープンチャットを通年開設しており、いつでもどこでもクラブハウスを訪ねることができる環境を整えています。

（１１月１日現在、３０名のメンバーが参加）

参加者数　エントリー40名、実参加者30名（前回＋9名）

第５回 開催日：2023年10月29日（日）PM7:00～9:00

前半

1. 開会

2. ジュニアライフセービングとは

3. 専門委員のご紹介

4. 各委員会とジュニアとの関わり（1委員×5分）
   教育（ジュニア） 学生 スポーツ 防災 WS

5. ブレイクアウトルーム（20分）

後半

6. 各ルームの発表（1ルーム3分×4ルーム）
   ＊チャット質問受付開始

7. 全体でオープン討議（20分）
「すべてのクラブにジュニアライフセービング活動を」

8. ジュニアエデュケーションコースのご案内（10分）

9. まとめ、事務連絡、閉会

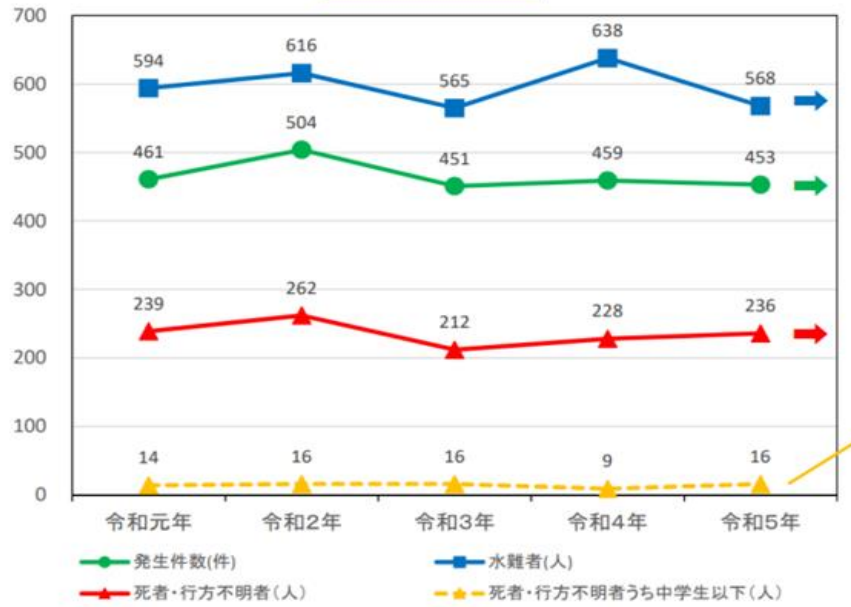
１６名の「いのち」を考える

Swim & Survive

Ⅰ．　子どもの溺水の実態と要因，課題

警察庁生活安全局生活安全企画課
令和５年９月13日より引用、作成

発生件数等の推移

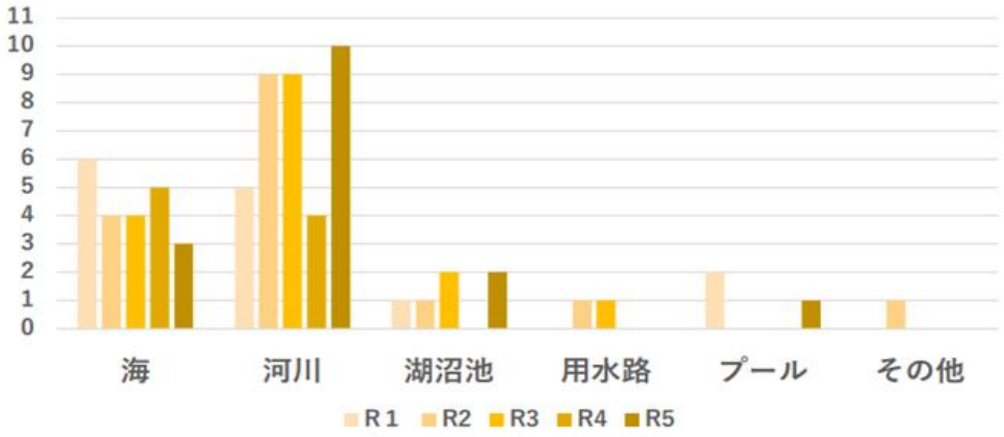


中学生以下は**106**人（18.7%）前年対比ー14人

中学生以下は**49**件（10.8%）前年対比－1件

中学生以下は**16**人（6.8%）前年対比＋7人

令和5年夏期における水難の概況分析
～Topic：中学生以下～



場所別　死者・行方不明者数（中学生以下）

日本財団 THE NIPPON FOUNDATION　海と日本 PROJECT

1

JLA Jr LIFESAVING CLUBHOUSE

ジュニアライフセービングとは

JLA ジュニアプログラムのねらい
水辺の活動における楽しさの中から、自然や人との関わりあいを学び、相互理解から命の大切さを 実感することによって、たくましく豊かな人間関係を目指す。

＜楽しさ＞　体験活動が子どもの心と体を満たしていく

＜人との関わりあい＞　心から“ありがとう”が言える子に

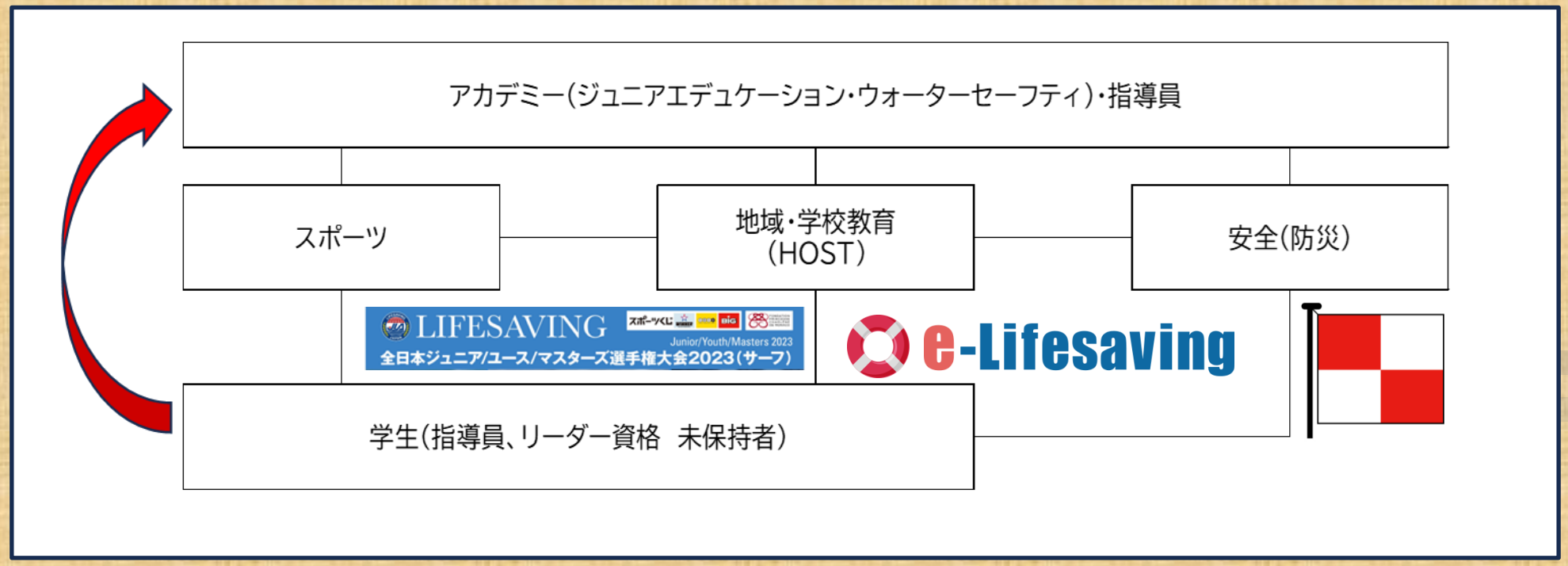
＜命の大切さ＞　思いやりこそ最高のレスキュー

CPRコンセプト（岩井臨海学園「修了証」より）
Communication　Personality　Respect

ライフセービングスポーツ　最後まであきらめない
ジュニアライフセービングから生涯活動へ

ジュニアライフセービング | 【公式】JLA | 公益財団法人 日本ライフセービング協会 (jla-lifesaving.or.jp)

JLAヒューマンチェーン（各分野とジュニアのつながり）



ウォーターセーフティ、BLS、スポーツ、環境、そして防災教育 を各年齢期で横断的に学べるフレームワーク作りを目指します。

各委員会紹介（ご出席の専門委員のみなさま）

学生本部
本部長　　白井　勇喜

スポーツ本部
本部長　　田村　憲章

ウォーターセーフティ委員会
委員長　　竹内　啓

ジュニアエデュケーション委員会
委員長　石原　早織

防災対策委員会
委員　　小山　大介

ご出席ありがとうございます。

各委員会紹介　LS教育本部（学校教育・地域教育推進委員会）

vision　『水辺の事故ゼロ』
mission　『水辺における安全知識と技能を広め、誰もが安全に楽しむことのできる社会へ。』
strategy　『1. ライフセービングを通じた生命教育の普及　2. 認定ライフセーバーの育成…』

GRAND DESIGN 2061

JLA GRAND DESIGN
「すべての国民がライフセービングを通じた生命教育を学べる社会をめざします」
地域社会の中で➡全ての加盟クラブで年間を通じたジュニアLS教育の展開
学校教育の中で➡学齢に応じたWSプログラムを義務教育課程へ導入

教育本部
学校教育推進委員会
地域教育推進委員会

指導フレームワークの構築

いつ、どこで、誰に、どんな
指導をするのか
（学齢、環境、学校…）

e-Lifesaving　新規コンテンツ
拡大中（ライフセーバーのいない海で、川編、湖編…）
真の未然とは…

義務教育課程への導入
全てのクラブでジュニア活動を実施する

いつでも、どこでも、誰でも
ライフセービングに触れることができる

・教職員研修
・器材支援（新規立ち上げから通年のプログラムへ）
・宿泊型プログラム
★ウェットスーツ

スポーツ庁助成事業
カヌースラロームセンター
e-Lifesaving×WS

指導プラットフォームの構築

より多くの人が
より良いものを
より多くの子どもたちに

JLA Jr.ライフセービングクラブハウス
ジュニア指導者LINEオープンチャット

その他の事業展開
・Jr.ライフセービング教育実態調査
どれくらい広がったのか
・Jr.ライフセービング教室現地調査
どこにどんな支援が必要なのか
・教育関連機関へのサポーター講習会
・WCDP参加
・社会教育施設へのプログラム展開

各委員会紹介　LSスポーツ本部

ライフセービングスポーツ本部

＜ライフセービングスポーツの役割＞

・ライフセーバーのスキルを磨く

・ライフセービングの入口

＜競技会の運営＞

シリーズ	大会名	目的
ユース シリーズ	ユース　ビーチ	真剣勝負での勝敗を通じた育成 ライフセービングへの入口 アンチドーピング＆栄養学の研修実施
	ユース　サーフ	
	ユース　プール	
ジュニア マスターズ シリーズ	ジュニア・マスターズ　ビーチ	ライフセービングへの入口 スポーツとして楽しむことを重視
	ジュニア・マスターズ　サーフ	
	ジュニア・マスターズ　プール	

＜LSスポーツクリニックの開催＞

JHPT (強化指定選手)や日本代表選手によるジュニア・ユース を対象としたスポーツクリニックの開催

第一に，人を救うライフセーバーであり 第二に，競技者であること

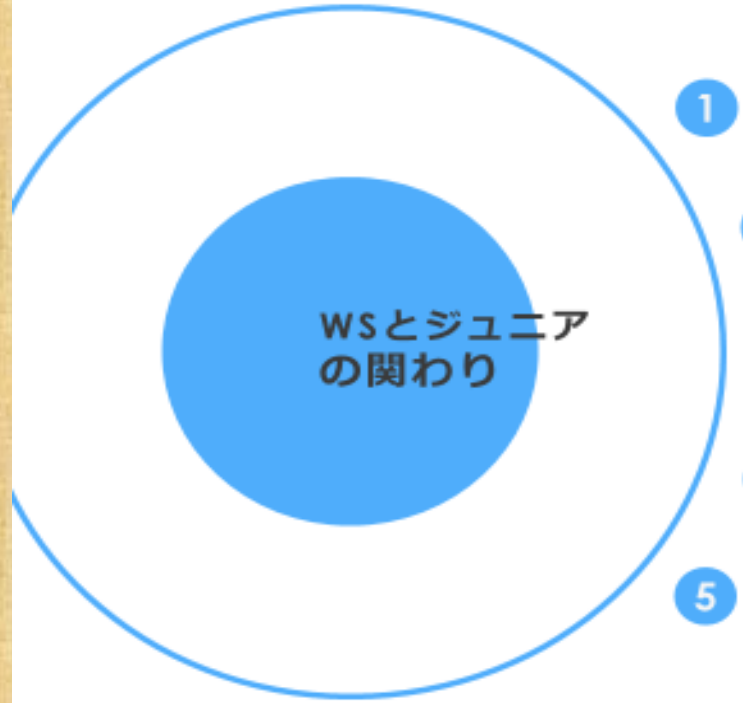
各委員会紹介　救助救命本部　防災対策委員会

救助救命本部　防災対策員会

【概要】 津波避難に関する防災対策の推進をはじめ、それに関する知識や技術の普及、各地域や各クラブにおける津波避難訓練(海浜利用者とともに行う訓練など)を推進します。
また、各地域や各クラブが都道府県や市町村共に具体性のある津波避難マニュアル作成を促す。

【 活動内容 】
- 津波フラッグの普及
- 津波避難訓練の実施
- 津波対策に関するマニュアル作成

各委員会紹介　アカデミー本部　ウォーターセーフティ委員会



1. 楽しみながら安全を考え行動ができる能力に身につける
2. 子どもの好奇心は止められない
3. 水辺の事故に遭わない&助かる技術と知識
4. サバイバルスイムとKeep Watch
5. 資格発行ではないWSプログラムの構築と指導者への情報提供

ジュニアエデュケーションへのお誘い

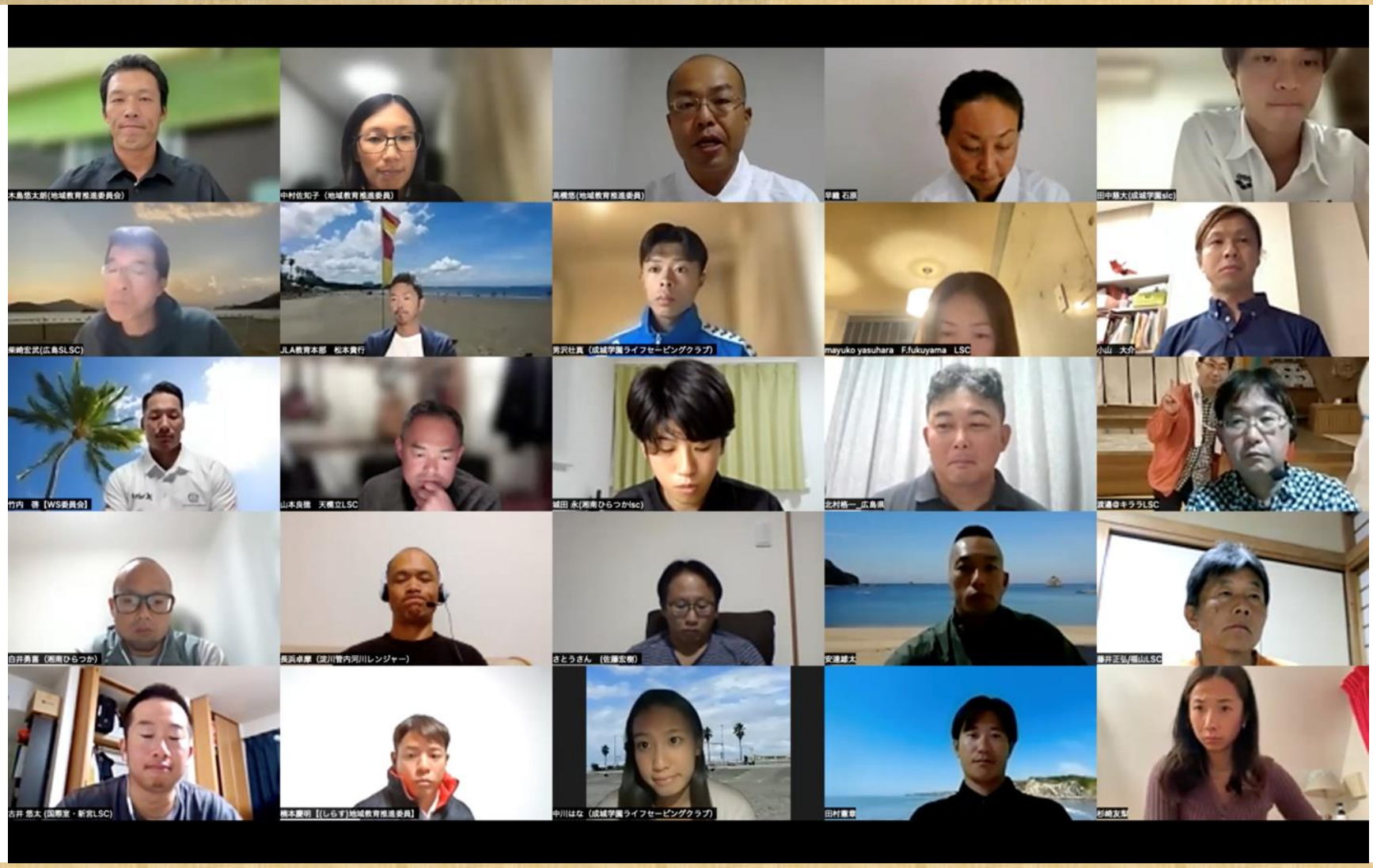
ACADEMY

ジュニアエデュケーション委員会

2023年度 アクションプラン	上半期	下半期	検討事項
1．リーダー講習会の開催	5月　成城学園 13名 6月　福山　　6名 計　19　名	11/23　静波 他でも開催検討中	今後、教育に関わる大学生に向けて、講習会を実施していく →今以上に「水辺の安全（ws）にかかわる教育」の需要が増えてくると推測
2．指導員養成講習会	テキストの改訂 学科試験の改訂 カリキュラムの改訂	2回程度の開催予定 関東、関東以外で検討中	2024年度から、アカデミー本部から都道府県協会へ指導員養成講習会のニーズをgoogle form等で聞いてみてはどうか。
3．ws資格、コーチング資格とジュニアライフセービングバッジテストの連携		WS委員会、スポーツ本部とのMTGを検討中（2024.1ごろ）	
4．ジュニアライフセービングかるたの活用推進	指導員養成講習会、リーダー講習会にて配付	→	既存リーダー、ジュニアライフセービング指導員へ配付（2024.1までに）

P.1

意見交換会の様子



木島悠太朗(地域教育推進委員会)
中村佐知子（地域教育推進委員）
高橋悠(地域教育推進委員)
早織 石原
田中慈大(成城学園slc)
柴崎宏武(広島SLSC)
JLA教育本部 松本貴行
男沢壮真（成城学園ライフセービングクラブ）
mayuko yasuhara F.fukuyama LSC
小山 大介
竹内 啓【WS委員会】
山本良徳 天橋立LSC
城田 永(湘南ひらつかlsc)
北村格一_広島県
波連@キララLSC
白井勇喜（湘南ひらつか）
長浜卓摩（淀川管内河川レンジャー）
さとうさん（佐藤宏樹）
安達雄大
藤井正弘/福山LSC
吉井 悠太（国際室・新宮LSC）
横本慶明【(しらす)地域教育推進委員】
中川はな（成城学園ライフセービングクラブ）
田村憲章
杉崎友梨

各分野から発表（ブレイクアウトルーム）

スポーツ
・問題点：地方の人がユースの大会や全日本への観戦、参加が難しい。
→保護者への負担が大きい（移動距離と金銭負担）
・広報のやり方：SNSの発信だと子どもには情報が届かない。（渋谷でのビーフラ大会など）
→ジュニアの子どもが見える広報の仕方や他団体へのアプローチが必要ではないか？
・成城学園では中学生の時に学校行事でBLS、WS、ニッパー体験ができる。
→このような学校行事が増えるとライフセービングに関わる子どもが増えるのでは？

アカデミー（ウォーターセーフティ）
・カヌースラロームセンターの内容を共有。
→河川財団：川の指導では岩を蹴って逃げる
→JLA：離岸流、飛び込みを体験。
泳力に差があったので、WSを経験した子どもに参加して欲しかった。
プール等でライフジャケットの活用するハードルが高い。
ウエットスーツも難しい。
・WSは自由度も高い分、指導が難しいので、レベルアップの場が必要である。

防災対策
・防災プログラムをどのように伝えていくか？（＋α）
→備蓄食を作ったり、食べたりする。
→他の地域、大会で訪れる地域のハザードマップを確認する。

アカデミー（ジュニアエデュケーション）
・みんなのジュニア活動の紹介。
→子供に一気に広げるには学校というフィールドがあるといい。
・なぜ教育が大切か？
→キーワードを知っている、見たことある。というだけでも理解度が違う。

トークセッション（前半）事後アンケート

「16人のいのち」「各専門委員会からのジュニアに関する活動報告」で印象に残ったことを1つ挙げてください。

参加者の中から、以下のような意見を頂いております。

・「16人のいのち」のお話から、依然として水辺での死亡事故が無くならないということを改めて確認し、関係団体が総力を上げて取組を強化する必要性を感じました。

・16人の事故要因等を全て調べて分析する必要がある。そもそも16人が多かったのか？少なかったのか？

・JLAとしての「責任」、JLAとしての役目。4～15歳の事故が減っていないこと。

・学生の意見が力強く未来を考えたお話でした。

・ライフセービングに関わる高校生の意見に触れる場がほぼなかったので新鮮でした。

＊頂いた意見の中で、抜粋させて頂いております。

全体でのオープン討議

「すべてのクラブにジュニアライフセービング活動を」

ジュニア
全国的に見ても西側で通年プログラムをするクラブが少ないので、何が障害になっているのか？
・広島：機材ではない。リーダー（指導者）の数が少ない。
→教育学部をターゲートに育成していく必要があるのでは。
→地域大学の開拓をしている。きっかけがジュニア教育をきっかけでライフセービングを始めやすいのでは？

スポーツ
・スポーツマンシップとは、ルール、マナーを守る。
↓
・ライフセーバーシップとは、ゴールの先にある命。最後まで諦めない。お互いを称え合う。ゴールまで全力で。ただ競うだけではない。
・子どもの達成度を分かりやすくする級制度をつける
→指導者も進めやすい。
→子どもの目標を持ちやすい、継続しやすい。
・今後もコラボが必要である。

質問 1
Q、大学生が卒業したら、どれくらい続いているのか？

A、実際はデータがあります。
資格更新率は下がっており、アカデミーの課題でもある。
更新しない理由は費用の問題やメールの見落としがある模様。

質問２
Q、夏休み前にプールでの出前授業をどのように考えておられますか？
A、今年度もJLA協会宛に連絡もらった場合、学校の希望に沿って対応しました。
来年度も対応できるように調整中である。

トークセッション（後半）事後アンケート

「 どうすれば全国すべてのクラブにジュニアライフセービング活動を普及できるか」で印象に残ったことを1つ挙げてください。

参加者の中から、以下のような意見を頂いております。

・やはり学校での取組が大きいと思われるので、出前授業や教職員などへの研修の必要性を感じました。

・1度にたくさんの子供達に指導できる環境づくりがKeyではないか。

・いろんな地域での活動を知ることができてよかったなと思います。

・(ジュニアライフセービングが)未開拓な地方では、(ジュニアを育てる)メリットや意義が伝わっていない。

・リーダー講習会をもっと魅力あるものにする。

＊頂いた意見の中で、抜粋させて頂いております。

資料①ジュニアライフセービングの普及状況（2021.7現在

ジュニアライフセービング活動クラブ一覧

年間プログラム実施

地方名	クラブ名
東北	気仙沼LSC
関東	鹿嶋LGT
	大竹LSC
	銚子LSC
	勝浦LSC
	館山SC
	KITAJIMA AQUATICS
	三多摩LSC
	鎌倉LG
	西浜SLSC
	湘南GoldenAgeアカデミー
	湘南ひらつかLSC
	湯河原LSC
中部	熱海LSC
	下田LSC
	静波LSC まきっず
中国	萩SLSC
九州	宮崎LSC

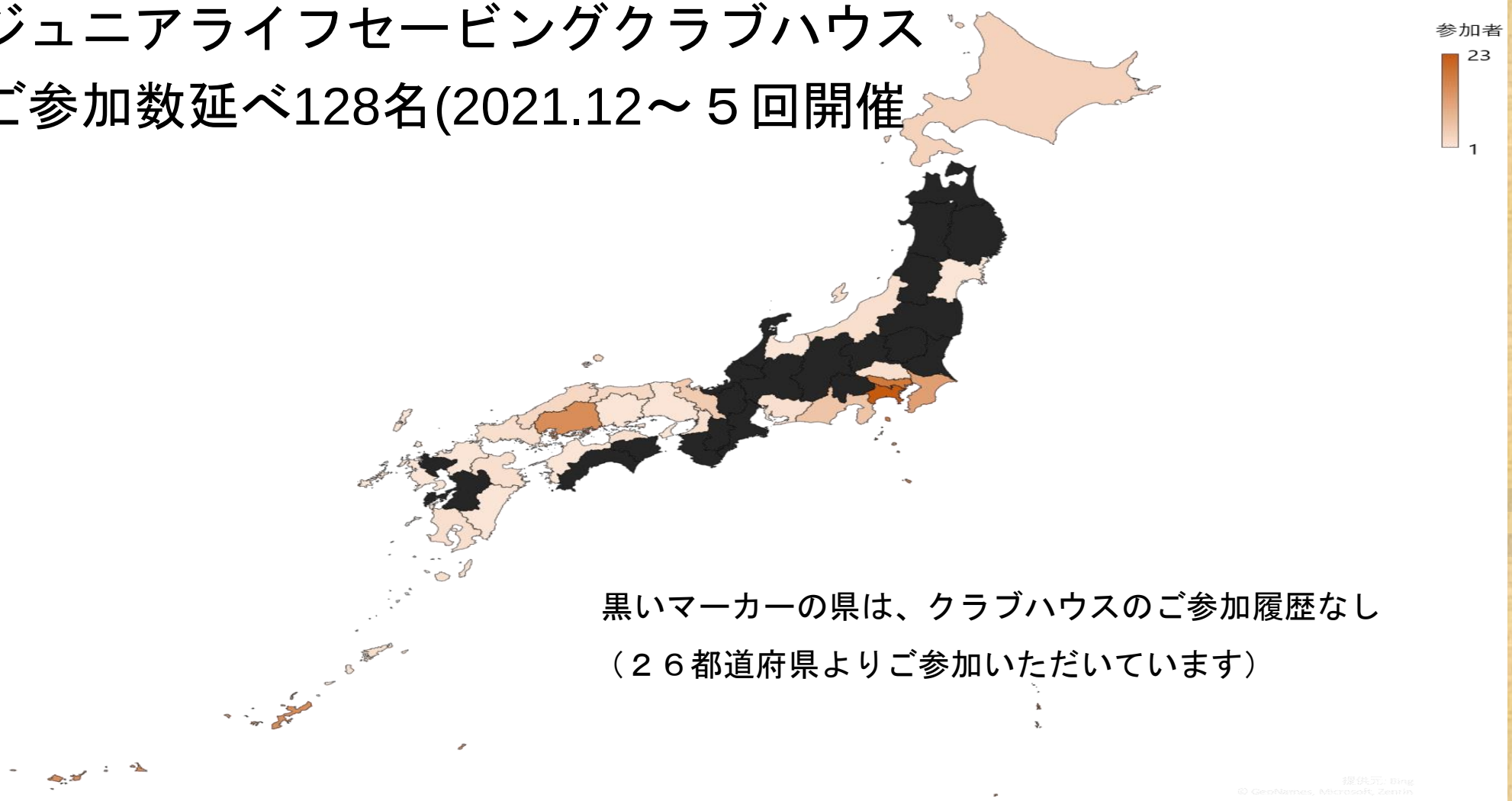
※新型コロナウイルスの影響で、
ジュニア活動を休止している可能性もあります。

夏期限定ジュニアプログラム実施

地方名	クラブ名
北海道	札幌LSC
東北	山形LSC
関東	波崎LSC
	鹿嶋LGT
	大竹LSC
	勝浦LSC
	館山LSC
	三多摩LSC
	横浜海の公園LSC
	鎌倉LG
	西浜SLSC
	湘南ひらつかLSC
中部	佐渡LSC
	下田LSC
	南伊豆LSC
	静波LSC まきっず
近畿	天橋立LSC
中国	萩SLSC

資料②ジュニアライフセービングの普及状況

ジュニアライフセービングクラブハウス
ご参加数延べ128名(2021.12～５回開催



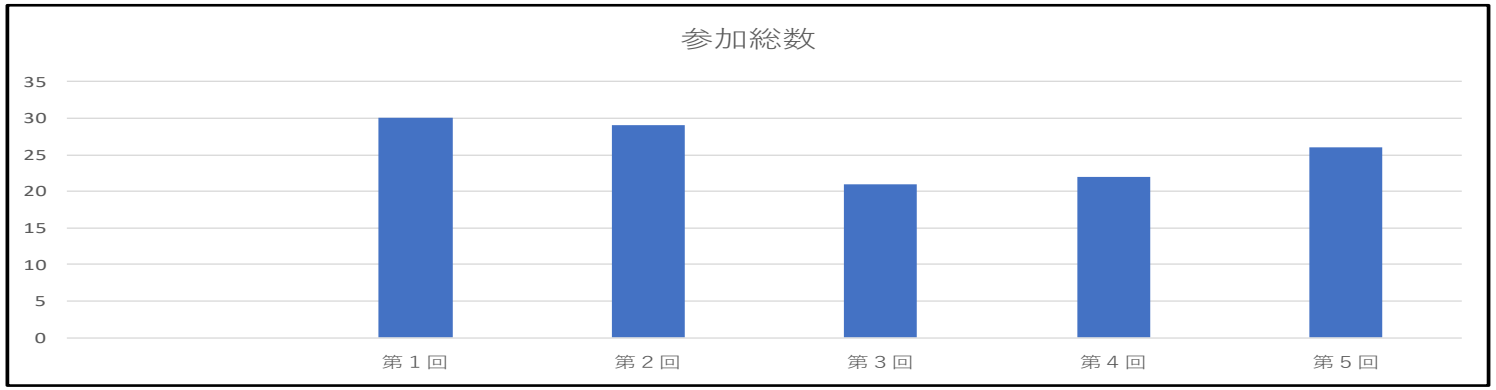
黒いマーカーの県は、クラブハウスのご参加履歴なし
（２６都道府県よりご参加いただいています）

資料③クラブハウス申込状況

		2021.12.	2022.6.	2023.1.	2023.6.	2023.10.
		第１回	第２回	第３回	第４回	第５回
参加総数		30	29	21	22	26
内）西日本		14	12	11	8	14
内）東日本		16	17	10	14	12
目的(ターゲット		指導員	学校関係	運営（既存	運営（新規	分野連携
リピート(%)				57.9	24.6	61.1
認知	e-lifesaving(%)	63.3	40.6	78.9	76.0	75.0
	かるた(%)	60.0	62.5		68.0	78.6
	バッジテスト(%)	33.3	71.9	47.4	60.0	57.1

※10/20現在

※第３回～委員のぞく

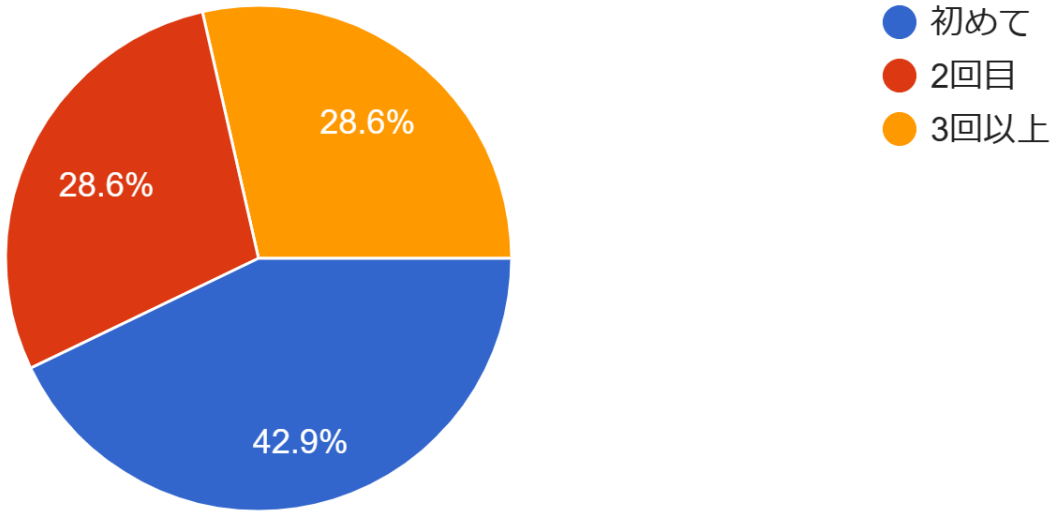


*Google申込ベース（当日の参加人数ではありません）

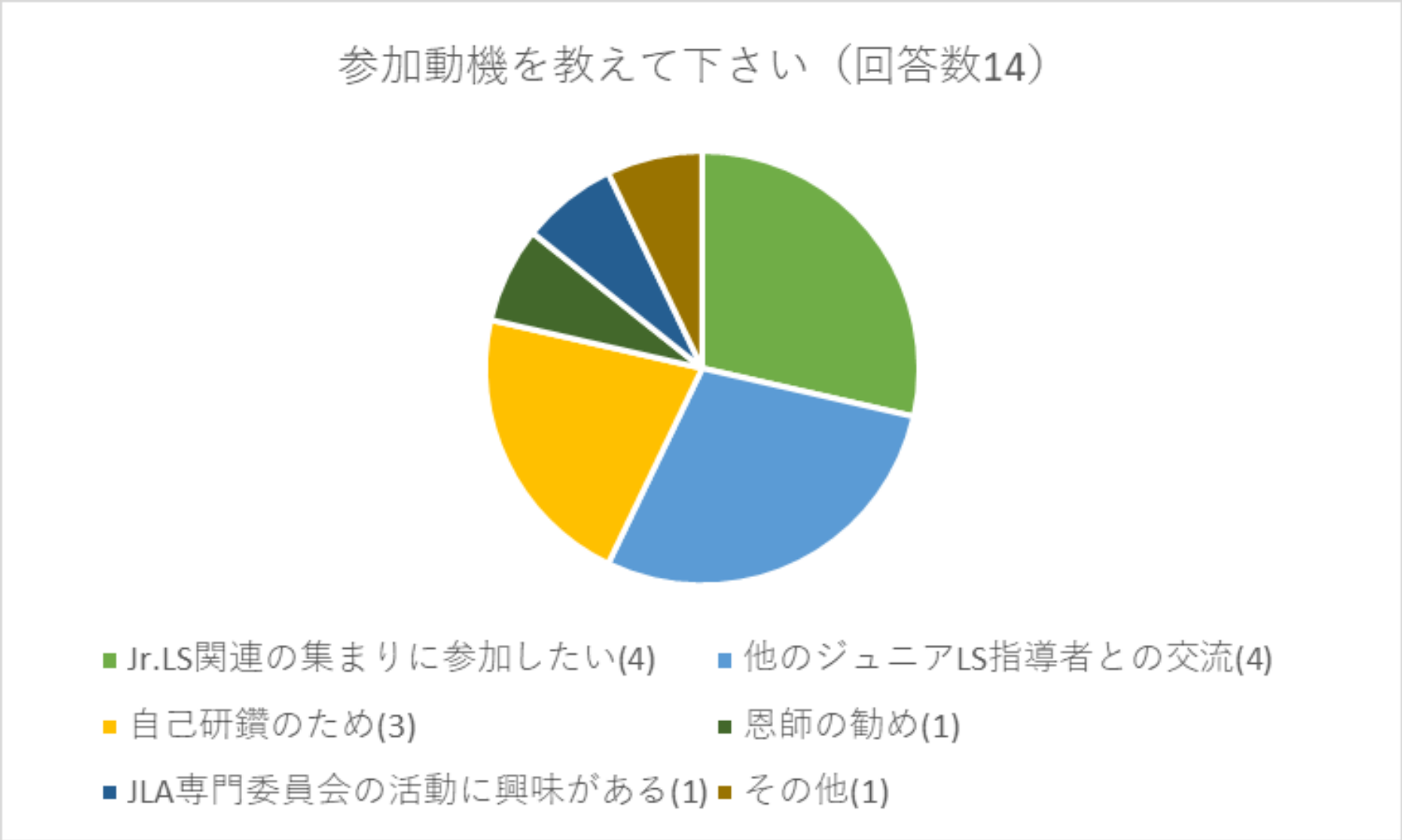
アンケート結果（クラブハウスへの参加回数）

JLAジュニアライフセービングクラブハウスへの参加回数を教えてください

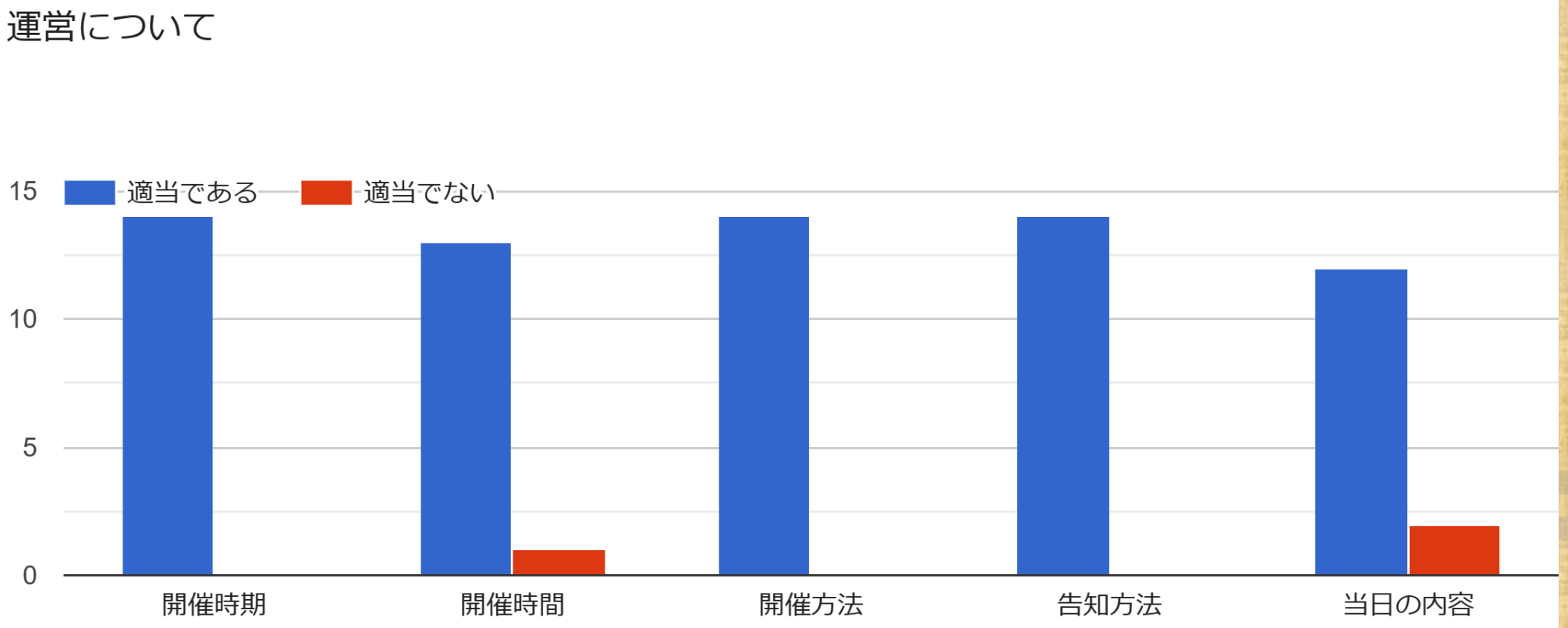
14 件の回答



アンケート結果（クラブハウスへの参加動機）



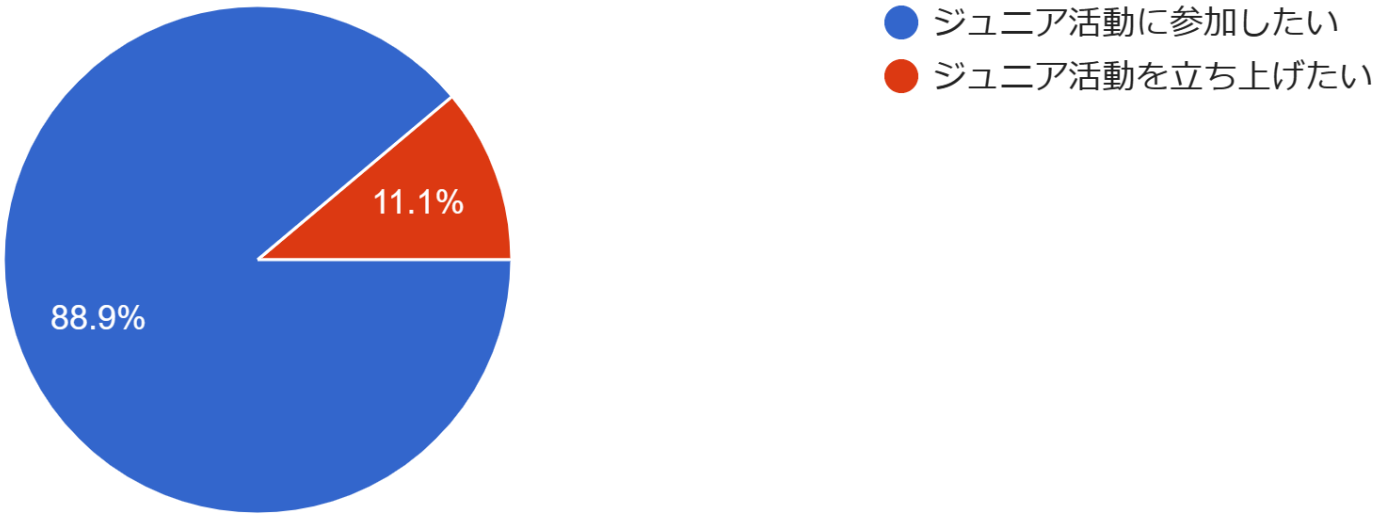
アンケート結果（運営について）



アンケート結果（今後のジュニア活動について）

現在ジュニア活動の指導に参加されていない方に…。以下について該当する項目を選択してください

9 件の回答



アンケート結果（ジュニアエデュケーションコースの資格取得状況について）

ジュニアエデュケーションコースの資格取得状況…。以下について該当する項目を選択してください

14 件の回答

参加者の感想（事後アンケートより）

・今回は外部の私に参加の機会をいただきありがとうございました。

・ホームページでしかJLAのことを知らなかったので、中心で活動されているみなさんのお話を聞くことができ非常に有意義でした。私も「水辺の事故ゼロ」を目指して活動をしているので、自身の知識やスキルと高めるためにライフセービング活動にも参加してみたいと思いました。今後ともよろしくお願いいたします。

・体育学部や教育学部を持つ大学の選択科目として開講され、リーダー及びインストラクター資格が任意（JLAへ申請・入金）で取得出来ると良いですね。

・委員会として危機感を持ち、クラブハウスというツールを用いて意見交換をされている姿勢が素晴らしいと思いました。今後も機会がありましたら参加をさせていただき、皆さんと広く意見交換をさせていただきたいと思います。

・もっともっとグループディスカッションしたいくらいでした！

＊感想について、参加者から頂いたものより抜粋しております。

第５回の振り返りと次回のお知らせ

今回、ジュニアに関する各専門分野（スポーツ、防災、ウォーターセーフティ、ジュニアエデュケーション、学生の各委員会）とのコラボ企画は、時期早々との声もありましたが、このままでは、ジュニア教育の裾野は広がらないという想いからキックオフとなりました。

次回、第6回目のクラブハウスは・・・

今夏、ジュニアライフセービング教室を実施された各地域クラブからの報告会です。

「ゼロからどうやったらジュニアを立ち上げることができるか」

新規も経験クラブもゼロベースで、課題など皆で考え、話し合いましょう。

（次年度の展望）

様々な調整が必要となりますが、クラブハウスならではの自由なトークの場の設定（まるごとワークショップのようなフリー開放）や、“face to face”のリアル開催も検討します。

次回もご参加お待ちしています。

クラブハウス事業担当　高橋　悠

第５回の総括

　この度はJLAジュニアライフセービングクラブハウスにご参加いただき誠にありがとうございます。クラブハウスは3年度目、通算5回目の開催となりました。年度毎に回数をリセットしないのはタイトルにクラブハウスを掲げた通り、子どもたちに携わる指導者の皆様がいつでも立ち寄り集まれる場所をイメージとしているためです。人と人を繋ぐ場所、そして情報収集や自己研鑽、意見交換や、マインドセットというようなそれぞれの想いを満たせる場所となることを願っております。

　コロナ時代に浸透したオンラインというツールも、リアルにしかできないことがクローズアップされるとともにやや陰りが見える昨今ではありますが、オンラインだからこそできた全国の指導者の皆様や、多方面を勢力的に牽引されている委員の皆様との交流が、新しい刺激やアイデアの種となって実りある時間となっていましたら幸いです。各委員会との交流という新しい試みにそれぞれの不安やご心配もあったかもしれませんが、成功に導いてくださった、参加者皆様のご助力に感謝いたします。当委員会では各事業の、自己点検と改善を進めながら「立ち止まっている時間はない」そういった危機感にも似た使命感、真剣さを胸に力強く歩みを進めてまいります。これからも水辺を楽しむ子どもたちの笑顔のためにジュニアライフセービングの輪を広げてまいりましょう。またお会いできる日を楽しみにしております。

地域教育推進委員長　木島　悠太朗

地域教育推進委員会メンバー

木島　悠太朗（委員長）

中村　佐知子

國木　孝治

楠本　慶明

石原　早織

玉虫　湧也

高橋　悠